

〔2016年度病床機能報告結果〕

区域	医療機能	必要病床数 (2025年)	2016年度 病床機能報告 (2016.7.1)	差し引き
東葛 南部	高度急性期	1,376	1,671	295
	急性期	4,783	5,671	888
	回復期	4,072	1,242	▲2,830
	慢性期	2,779	2,156	▲623
	休棟等	—	179	
	合計	13,010	10,919	▲2,091
全県 合計	高度急性期	5,650	5,307	▲343
	急性期	17,851	25,494	7,643
	回復期	15,260	4,411	▲10,849
	慢性期	11,243	11,213	▲30
	休棟等	—	771	
	合計	50,004	47,196	▲2,808

(単位：床)

病院の病床機能転換すすめる「地域医療構想」

国では2025年を目標年に設定して、病院の入院病床を4種類の「医療機能別」に再編する動きを進めています。千葉県でも昨年度、そのための「地域医療構想」が決められ、県内を9地域に分けて病床数の調整が行われています。

背景に国の医療費支出削減方針

東葛南部医療圏（船橋市・習志野市・八千代市・市川市・浦安市・鎌ヶ谷市の6市で構成）では、7月27日に「東葛南部地域医療構想調整会議」が開かれました。

「地域医療構想」では、入院病床を「高度急性期」「急性期」「回復期」「慢性期」の4種類に分類し、それぞれの必要病床数を国の算式にもとづいて算出。現状と比較して「過剰」「不足」を判定し、「過

剰」の場合には病院に機能の転換を迫ることになります。国がこの方針を決めた背景には、国の医療支出削減の狙いがあり、診療報酬の高い病床機能から低い病床機能に、数字を示して無理やり転換を押し進めようとするものです。

東葛南部地域でも大幅な再編方向

各病院が現在の病床数と6年後の病床数を4機能別に分けて毎年報告することになっており、昨年7月1日現在の東葛南部医療圏での報告数では、「高度急性期」は295床の「過剰」、「急性期」は888床の「過剰」、「回復期」は2830床の「不足」、「慢性期」は623床「不足」とされています（表参照）。この結果、「高度急性期」「急性期」から「回復期」「慢性期」への転換が各病院に強いられることとなります。

病床機能転換は事実上の強制

転換は強制ではなく自主的に進めていくとされていますが、法律では、転換が進まな

が進められます。

関係者からも批判の声が続出

この日の会議では参加者から、「必要病床の配分を非公開で決めているのでは、公平にやっていると言われても無理な話。医師会の代表なども入れて、地域の実情を聞きながら、事実上、強制的に転換

船橋市平和委員会が旧陸軍「登戸研究所」見学会を開催

7月26日、船橋市平和委員会（準）が、明治大学生田キャンパス（川崎市多摩区）にある「登戸研究所」資料館見学会を開催しました。

したものです。

「登戸研究所」は、旧陸軍が秘密戦の兵器や資材を研究・開発するため1937年（昭和12年）、「陸軍科学研究所登戸実験場」として開設

電波兵器、無線機器、宣伝兵器、毒物・薬物・生物兵器、偽札・偽造パスポートの製造、風船爆弾の研究などが行われていました。

資料館の建物は、「登戸研究所」36号棟として戦争当時に実際に使われていたものです。大学キャンパスには弾薬庫と呼ばれている建物や消火栓、動物慰霊碑など、当時のものが残されています。



「登戸研究所36号棟」を当時のまま使っている資料館内の現像所
7月26日・明治大学内



明治大学キャンパス内に残されている旧陸軍が設置した消火栓
7月26日・明治大学内



「弾薬庫」と呼ばれている戦前の建物。実際の用途は不明
7月26日・明治大学内